



私たちのDXの挑戦

～DXで、九州から日本の送配電の未来をリードする～

Our Digital Transformation Journey

トップメッセージ

現在、当社を取り巻く環境は大きく変化しています。再生可能エネルギーの導入拡大や設備の高経年化、自然災害の激甚化、さらには労働力人口の減少といった構造的課題に加え、半導体工場やデータセンターの進出により、電力供給の質と量の両面で高度な対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、2023年4月に「九電送配 経営理念」を制定し、「技術力とデジタル変革で、日本を代表する先進的なインフラ企業になる」ことを掲げました。その実現に向け、2024年8月にDXビジョンを策定し、現在、全社一丸で変革に取り組んでいます。

当社のDXは、10年後のあるべき業務の姿を構想し、業務のあり方そのものをゼロベースで見直す抜本的な業務再設計から出発しています。その実現に向け、短期・中期のDX施策を立案するとともに、アイデアをスピーディーに形にする専門組織「デジタルファクトリー」を設置し、他社でDXを手掛けてきたデジタル人材の採用も進めながら、事業部門と一体となって業務効率化アプリを内製開発しています。また、こうした開発においてアジャイル手法を取り入れ、ユーザーを巻き込み段階的に高度化することで、開発期間の短縮と現場で活用される仕組みの実装を実現しています。

さらに今後は、AI技術の進展を踏まえ、DXの取組みを一層加速していきます。デジタル空間におけるAI活用による業務の自動化・高度化に加え、現場の知見をデータとして蓄積し、将来的にはフィジカルAIの活用による設備の建設・保守など現場業務の高度化に挑戦し、人とAIが協働する新たな業務の在り方を構築していきます。

このような変革を通じて、「九州にパワーを届け、社会を元気にする」という存在意義（パーパス）のもと、DXで、九州から日本の送配電の未来をリードしていきます。



九州電力送配電株式会社
代表取締役 社長

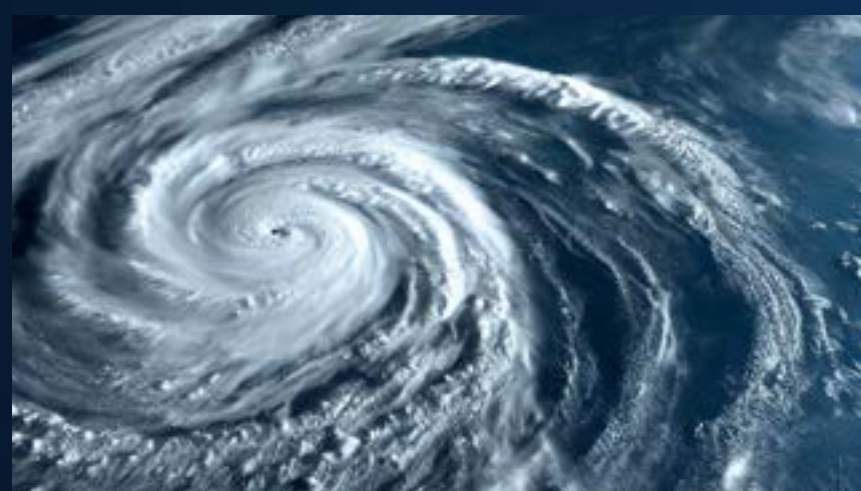
今村 弘



少子高齢化



電力需要の拡大



自然災害の激甚化



再生可能エネルギーの導入



設備の高経年化



CN（カーボンニュートラル）の実現



DXにより社会課題の解決に挑む

Tackling Social Issues Through DX

デジタル技術の進展



AI



ロボット



ドローン



AR/VR/MR



デジタルツイン

経営理念(目指す姿)

Our Vision

技術力とデジタル変革で、
日本を代表する
先進的なインフラ企業になる

.....

レベニューキャップ制度の導入などの経営環境の変化や社会課題を踏まえ、「全社指針」として制定（2023年4月）
10年先を見据え、デジタル変革に取り組んでいくことを明示

九電送配DXビジョン

DX Vision

DXで、九州から日本の
送配電の未来をリードする

.....

経営理念の実現に向け、DXにより業務効率と品質向上を両立しながら、お客さまや社会の課題を率先解決していくことを、DXビジョンとして策定（2024年8月）

DXプロジェクト

Key Concepts

- ① 業務再設計
- ② アジャイル開発
- ③ 内製化

.....

DXの実現の方策として、3つのキーコンセプトを設定

- ①ゼロベースでの業務再設計
- ②アジャイル開発×③内製化によるスピーディな施策の実行

九電送配 経営理念

存在意義 (パーパス)

九州に**パワー**を届け、社会を**元気**にする
安定的・効率的に電力をお届けすることを使命（ミッション）に、
「お客さまの豊かさ」や「社会課題の解決」に貢献する

価値観 (バリュー)

信頼：ステークホルダーからの信頼を、何よりも大切にします
進化：変化を先取りし、自律的に組織を変革していきます
共創：多様性を活かし、より高い価値を創造します

目指す姿 (ビジョン)

技術力とデジタル変革で、日本を代表する先進的なインフラ企業になる

DXビジョン



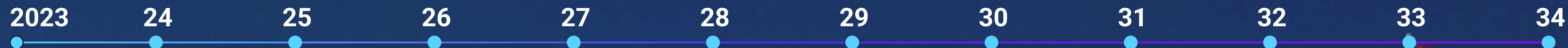
DXビジョンに込めた思い

デジタル変革により業務の効率・品質を大幅に向上させるとともに、日本の送配電事業が直面する様々な課題を率先して解決し、日本の送配電の未来をリードする存在になりたい

具体的には、デジタルを用い業務をゼロベースで再設計することにより生産性向上(倍増)を目指しつつ、インフラ企業として電力の安定供給やお客様満足度向上といったサービス品質向上を実現し、九電送配事業のみならず社会全体の課題に対し革新的な価値を提供していきたい

これらの実現の中で、社員一人ひとりが「しよう、したい」という気持ちで意欲的に働き、人も組織も成長しつづける会社にしていきたい

ビジョン実現に向けた道のり (DXプロジェクトの進め方)



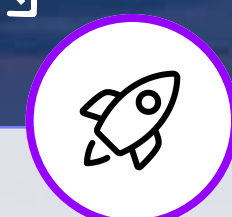
組織能力・体制構築

- 業務のありたい姿 / ロードマップの策定
- アジャイル内製開発の専門組織「デジタルファクトリー」の設置
- アジャイルな開発・展開を通したDXの型の習得



開発 / DX推進力強化

- AI技術を活用した更なる業務効率化・高度化の検討
- 内製開発の強化（人材採用/育成）
- 業務用アプリの展開



本格展開

- 取引先や自治体へのプラットフォームの展開や新規事業への拡大
- 組織能力強化、体制拡大
- 効果創出の本格化（収支基盤強化、成長事業の投資確保）

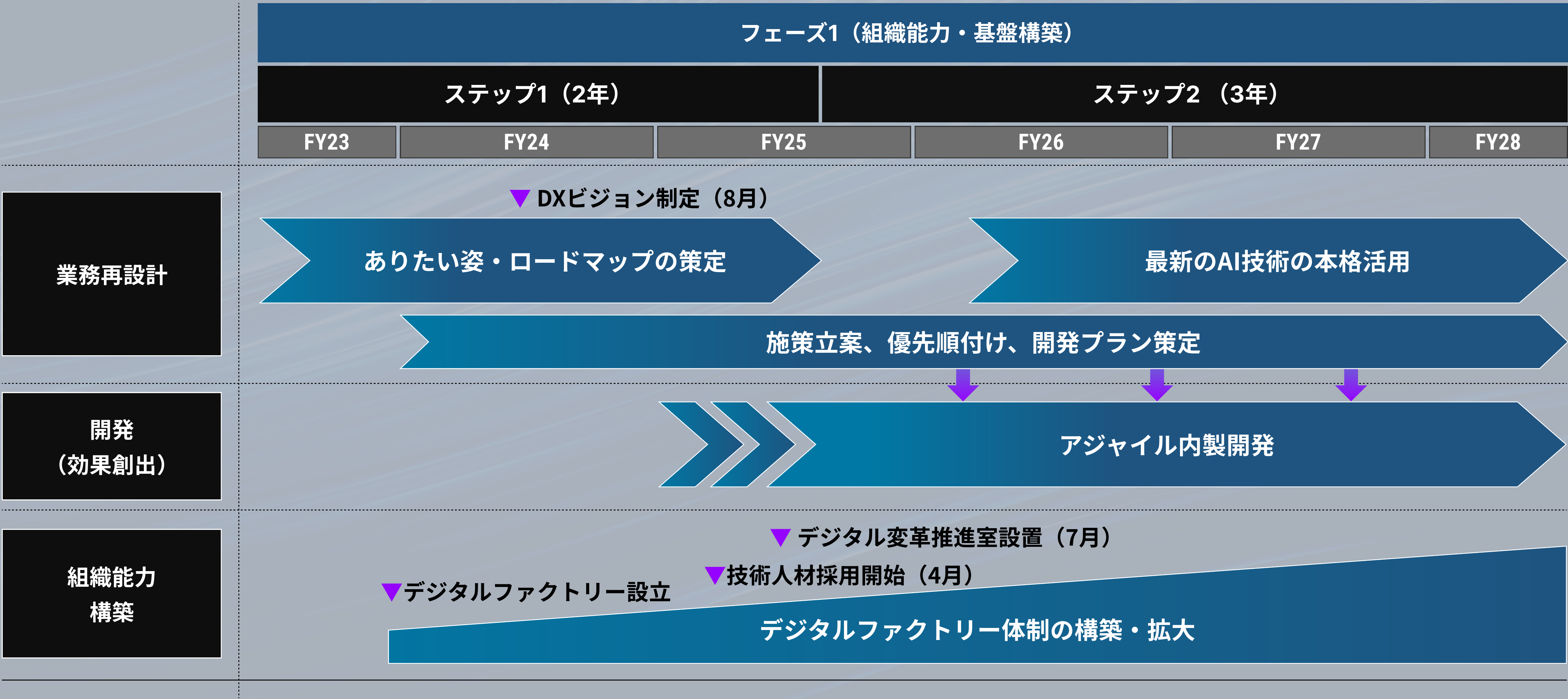


DXビジョンの実現



DXプロジェクト（フェーズ1）スケジュール

5年間を2つのステップに分け、ステップ1では体制確立、ステップ2ではAI技術の活用・開発を本格化





DX Initiatives

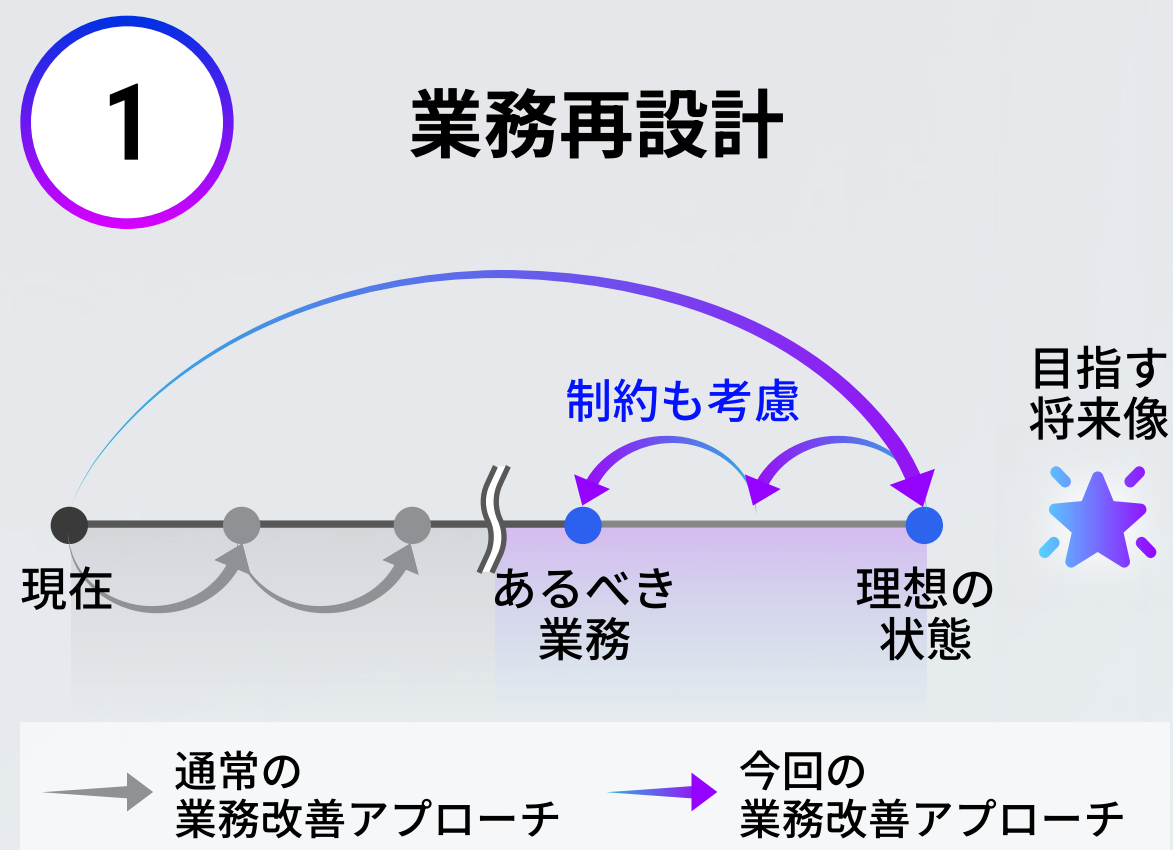
DXの取組み

DXビジョン

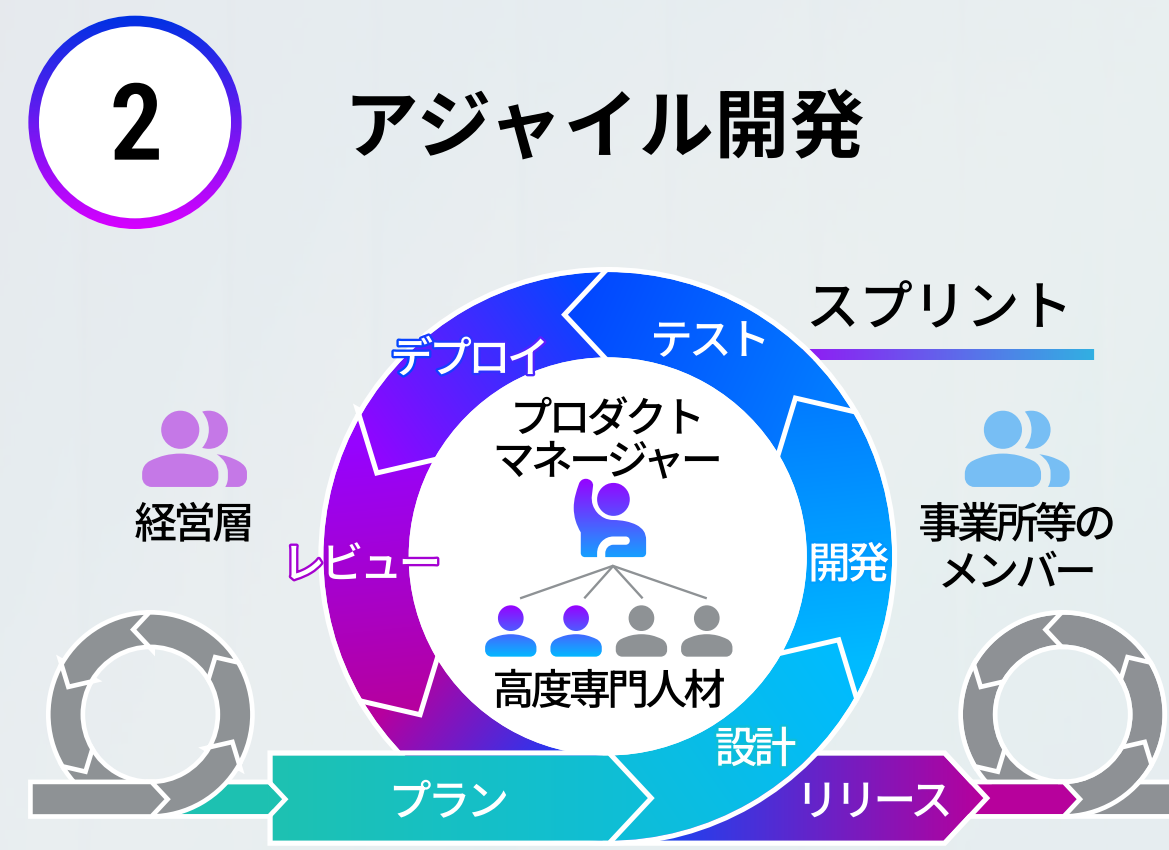
DXで、九州から日本の送配電の未来をリードする

3つの キーコンセプト

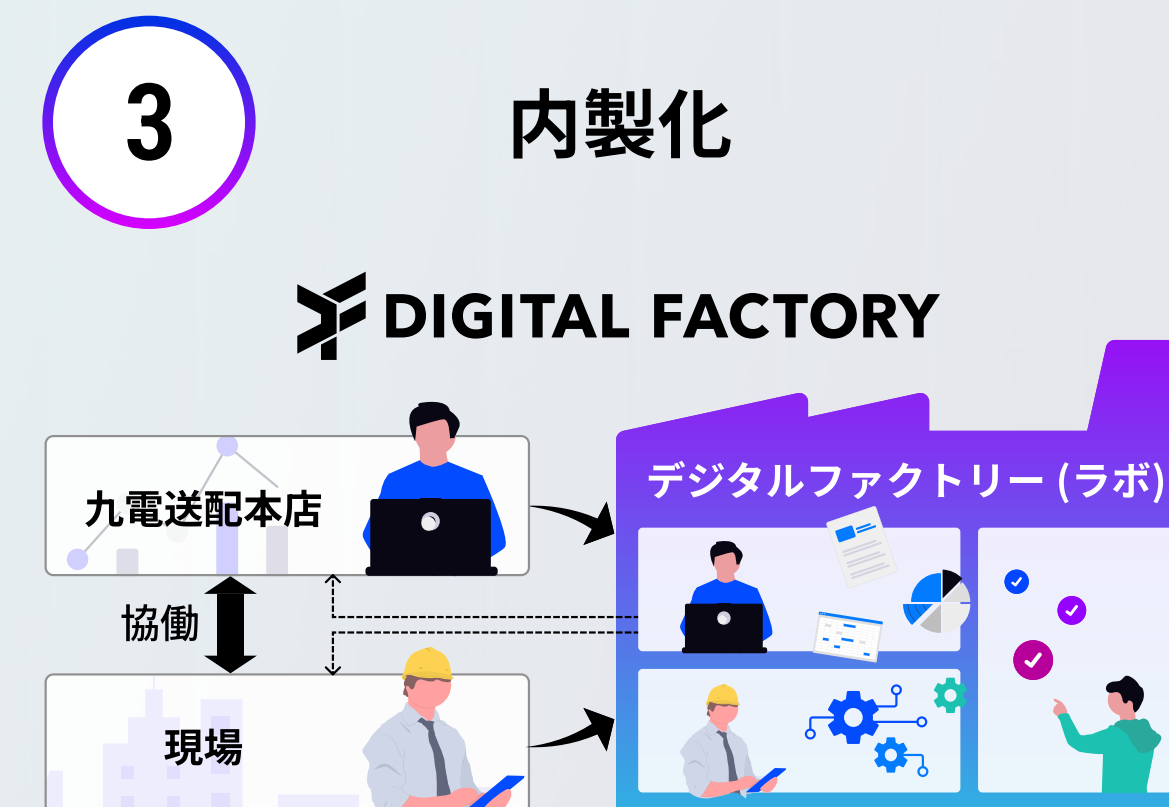
基盤 / ガバナンス



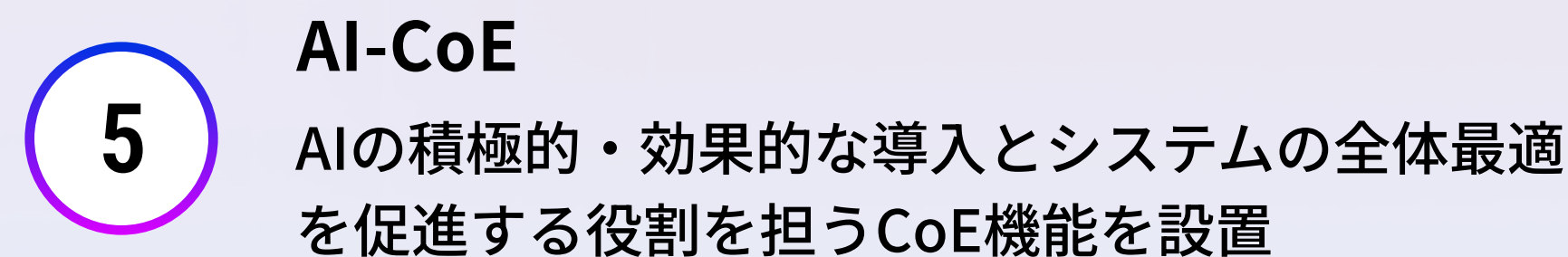
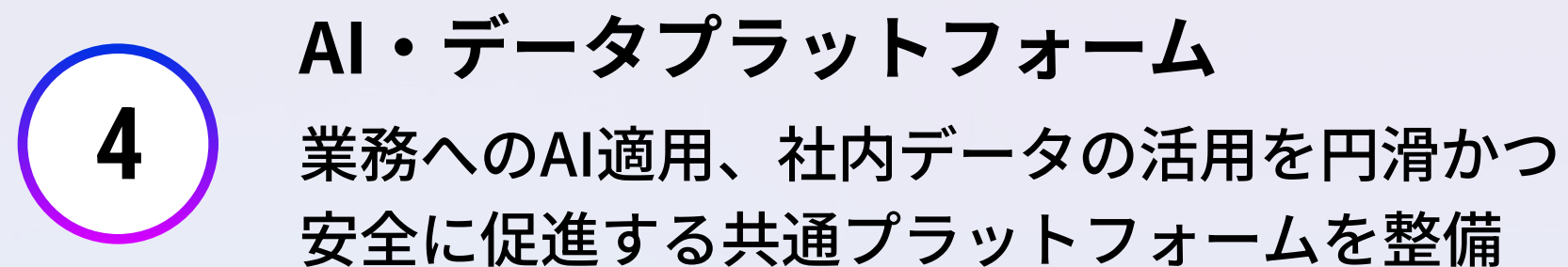
通常の改善アプローチとは異なり、現状起点ではなく**目指す将来像・理想の状態を起点**に実現すべき業務の姿を策定



最も価値の高い最小限の機能を持つ製品 (MVP) を最初に開発し、**顧客のフィードバックを受けつつ徐々に商品を開発**



アジャイル開発に特化した組織（デジタルファクトリー）で、デジタル専門人材が自らの手で開発・ナレッジを蓄積



1 業務再設計 ～ 私たちが目指すありたい姿～

当社業務の全体像と主な業務再設計のコンセプト



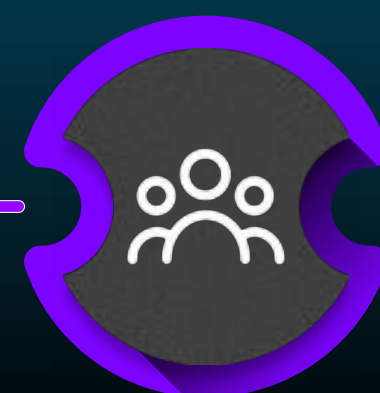
DIGITAL FACTORY

デジタルファクトリー設置の狙い



内製化の本格化

本店・現場・デジタル専門人材の混成チームを組成し、ユーザー目線を取り入れながら自らの手でスピーディーにプロダクト開発を推進



ユーザー目線の獲得

デジタルファクトリーのメンバーに加え、業務主管部門（支社・事業所含む）のメンバーが集う拠点となり、ユーザー目線を取り入れながら最新技術や最適なソリューションを提案



ナレッジの蓄積

プロダクト開発を通じた業務・デジタル知見や、最新技術・ソリューションの情報を継続的に蓄積し、社内デジタル化を強力かつ最適に推進



デジタル専門人材による内製開発

全社のDX推進と内製開発の中核となる組織として、2025年7月に系統技術本部にデジタル変革推進室を設置。同室に内製開発を担う体制「デジタルファクトリー（DF）」を構築し、アジャイル手法による内製開発を実施。中核となるデジタル専門人材の採用・社内公募を実施し、段階的に組織機能を強化している。

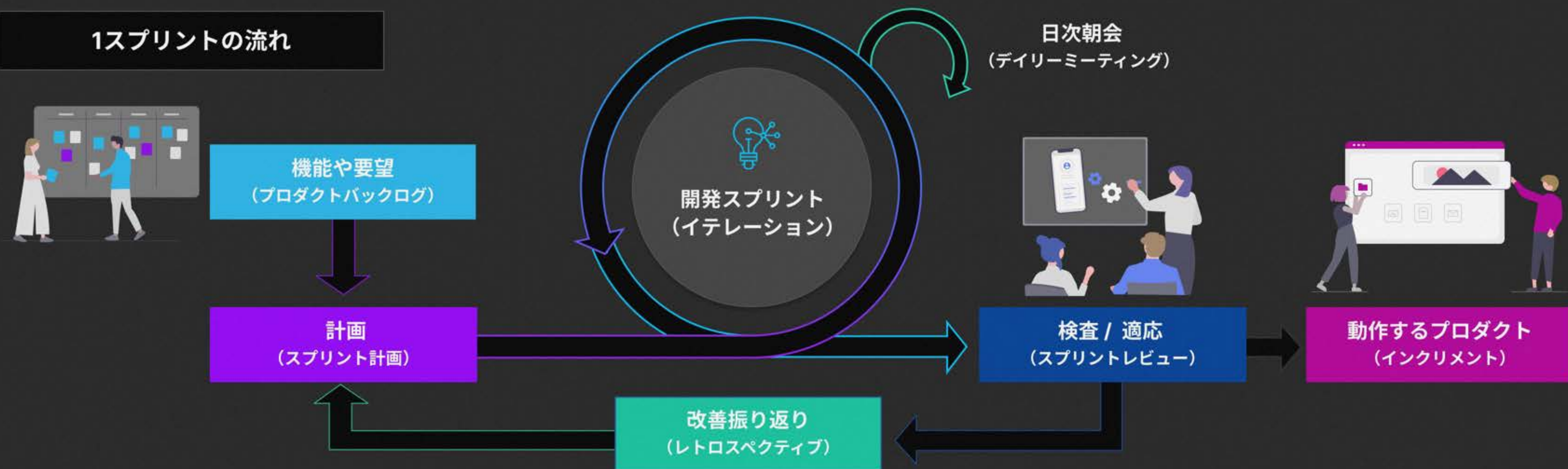
② 私たちのアジャイル開発 ～スピーディーかつ柔軟な開発～

アジャイル開発のサイクル



2週間単位の「スプリント（アイデア出し→開発→運用→改善）」を繰り返しながら、素早く、段階的にアプリを開発

1スプリントの流れ

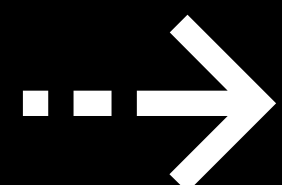


3 内製化 ～ 自らの手で価値を産み出す ～

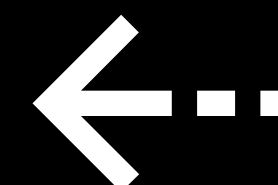
現場と密着し、ユーザーの意見・アイデアを反映しながらソリューションを段階的に開発し、迅速な機能改善（エンハンスメント）が可能

新技術を素早く試し、最適な形でソリューションへ反映し、それらの知見の継続的な蓄積が可能

社内外の変化
お客さまや社内ニーズの変化、
新たな社会課題への対応



内製化
In-house development



技術の進化
クラウド、AI、
ノーコードツールの普及

データ活用による経営への変革や、新たな社会課題や制度変更に合わせて業務再設計・施策化への柔軟かつ迅速な対応が可能

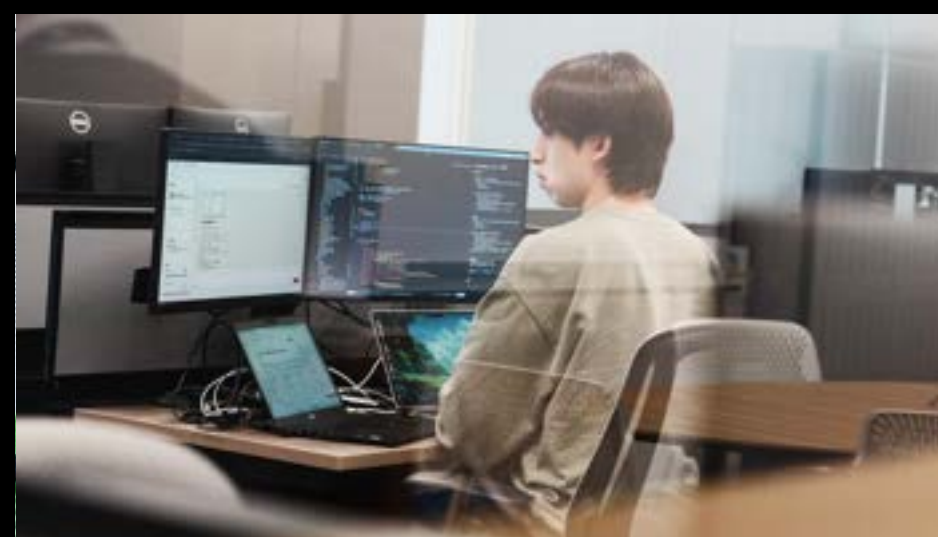
AI駆動開発等の最新の開発手法・ツールを積極的に活用し、生産性向上を実現



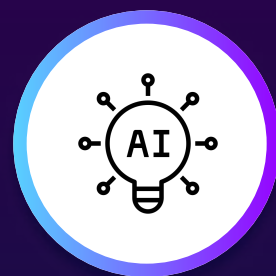
デジタル変革推進室 シニアエンジニア

現場密着の開発とノウハウ蓄積により、 スピード感のある組織変革を実現します。

デジタルファクトリーが内製化を推進する理由は、現場のニーズを迅速に反映し、改善のスピードを最大化するためです。内製化によってユーザーとの距離が縮まり、現場に寄り添った解決策を効率的に形にできます。また、社内に開発ノウハウを蓄積することで外部への依存を減らし、自律的にデジタル化を推進できる組織への変革を目指します。

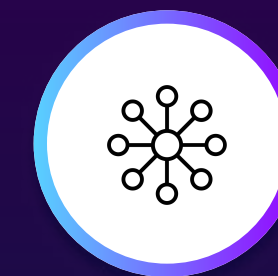


各支社・事業所主導



生成AI・ICTツール活用

- ・ 生成AIの積極的な活用
- ・ ローコード開発ツールを活用したアプリの市民開発
- ・ セルフBIツールでのデータ分析・可視化
- ・ Webカメラ、各種センサー、ドローン等ICTツールの現場適用推進



現場起点の改善・横展開

- ・ 各職場における業務課題に応じたDXの推進
- ・ 現場起点の改善アイディアの創出
- ・ 職場・部門を超えた取組みの横展開
(部門横断DX活動、ナレッジシェアプラットフォームの構築等)

支援体制

各種ツール提供

- ・ 共通AIサービスや各種DXツールの提供

ユースケース共有・好事例紹介

- ・ 社内DXサイトによる情報発信
- ・ 生成AI・データ活用事例等の共有

人材教育・機運醸成

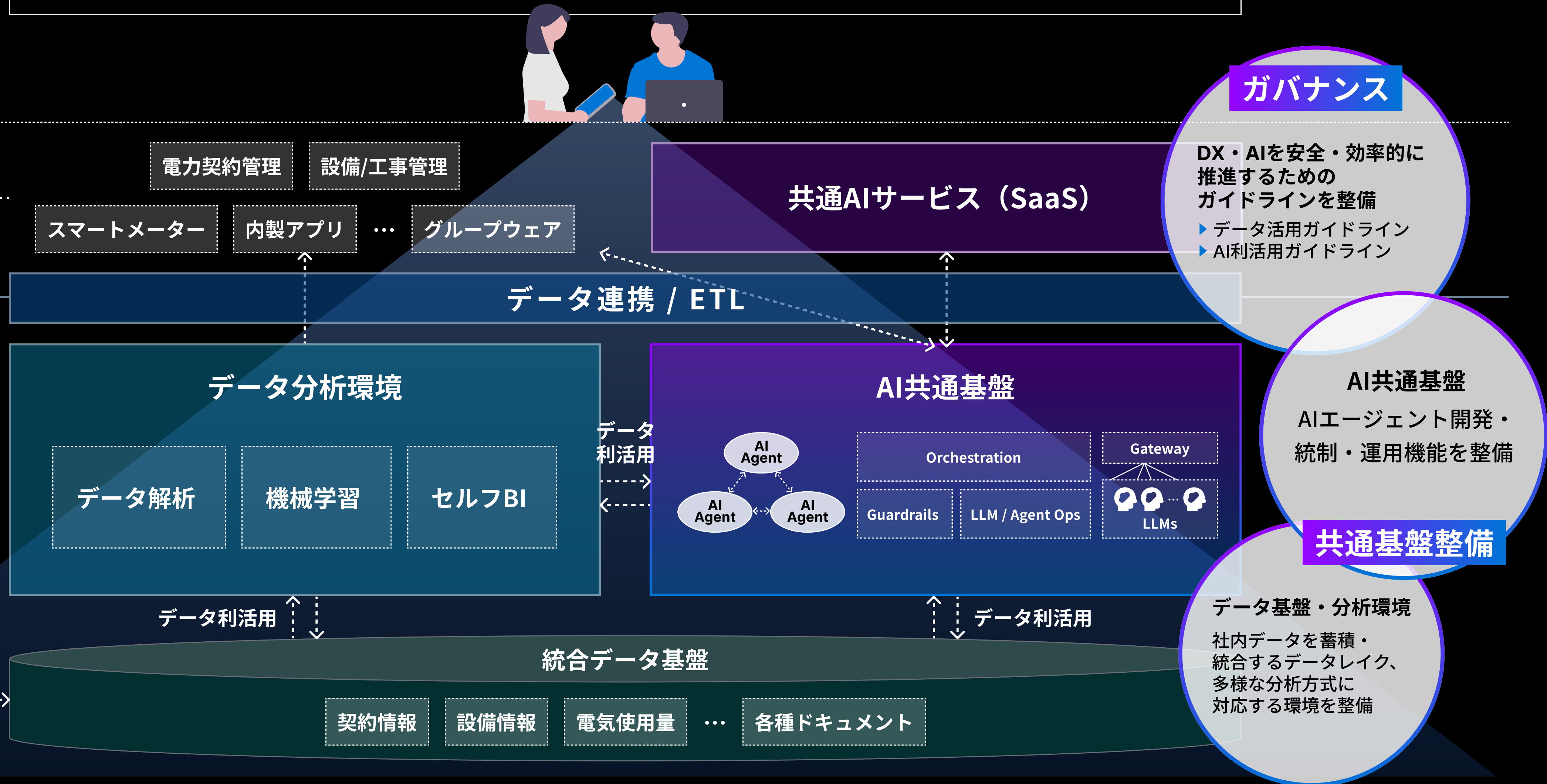
- ・ 共通的なDX研修の提供
- ・ DX表彰制度の導入

DX・AI推進を支えるAI・データプラットフォームを踏まえた全体アーキテクチャ（イメージ）

ユーザー

アプリケーション・
業務システムAI・データ
プラットフォーム

データ蓄積



社内外に分散するあらゆるデータを統合し、業務への活用に直結させることでDXを加速するプラットフォームを構築していく

5 AI導入の効率化・高度化に向けたCoE設置



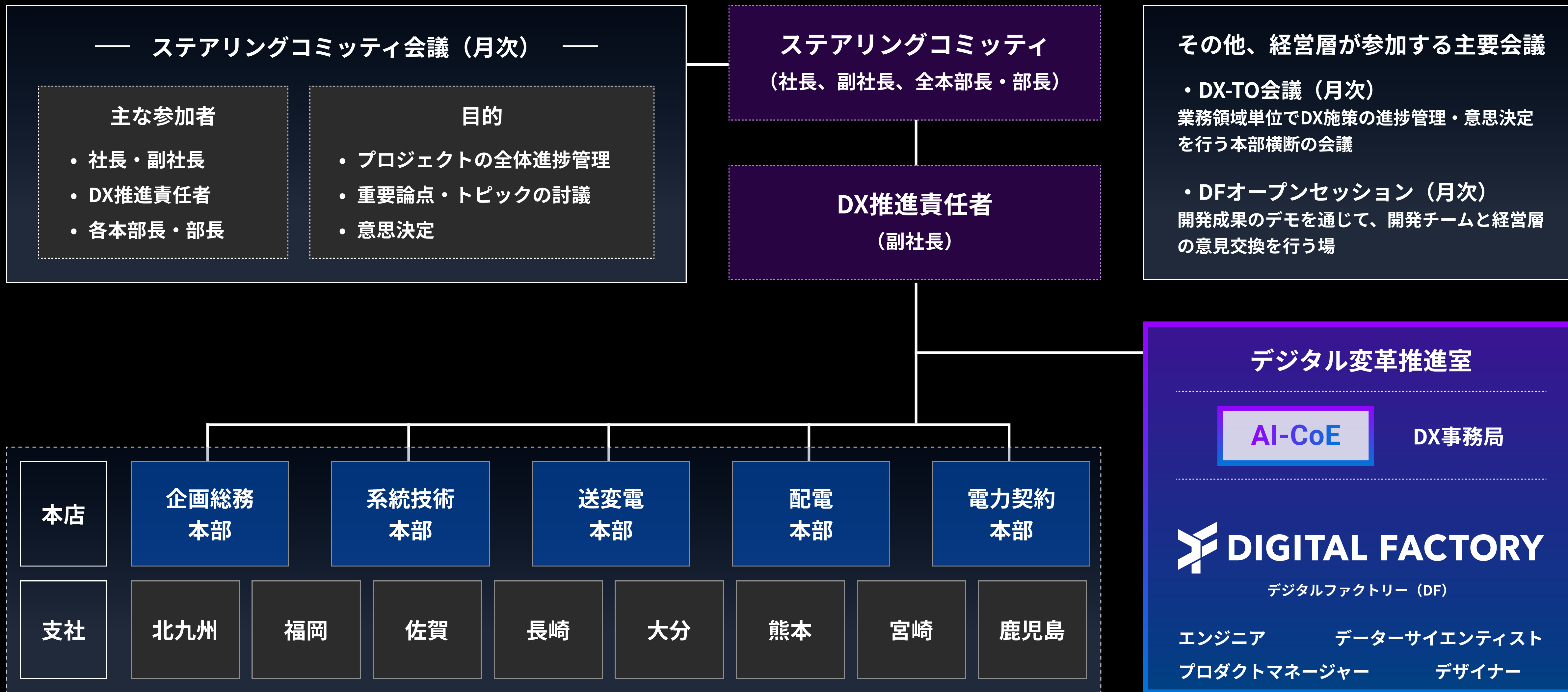
AI導入の効率化・高度化を促進するため、業務とAI技術の橋渡し等を担うAI-CoEを設置



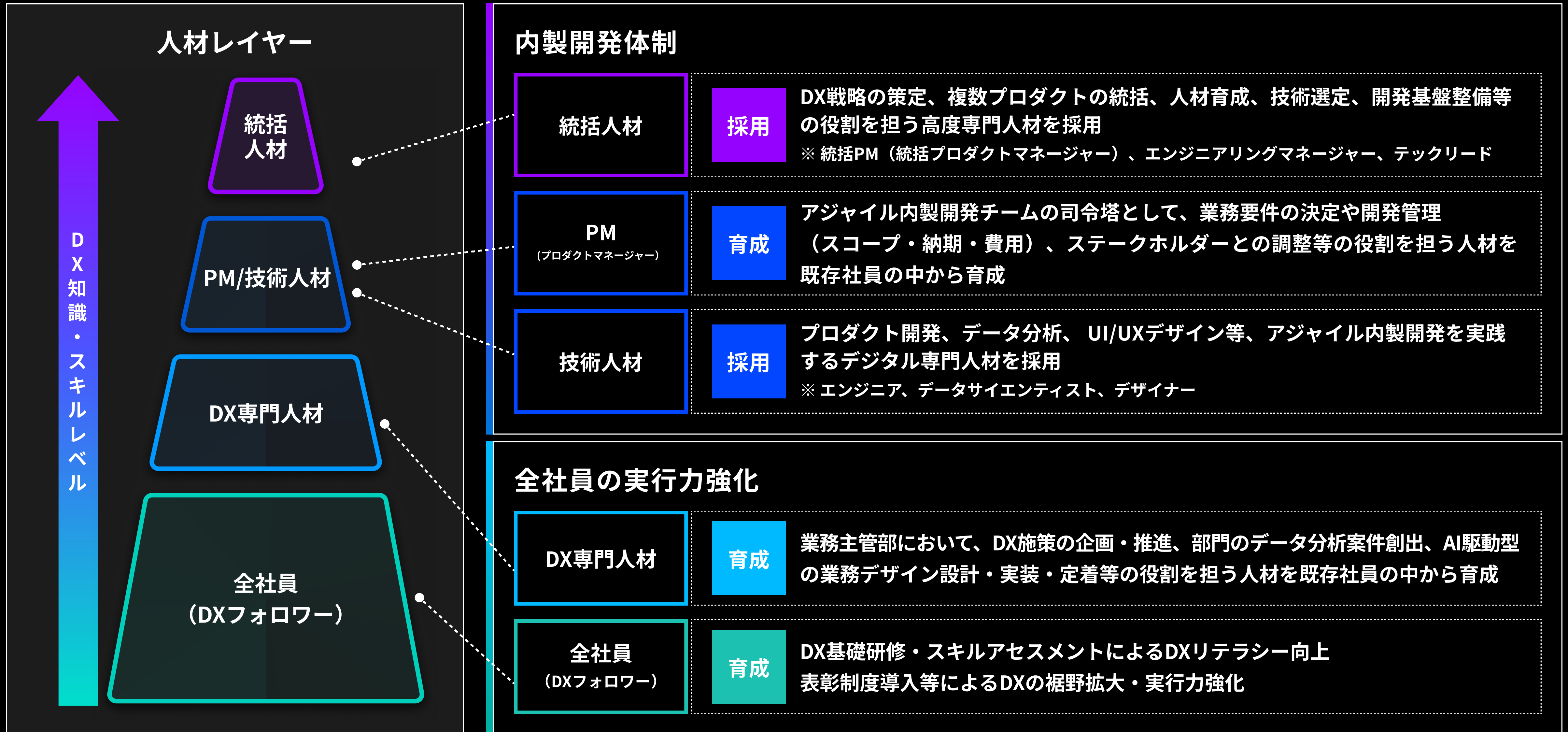
Organization and Talent Development

体制と人材育成

推進体制



経営層、各本部・支社、デジタル変革推進室が一体となり、DXプロジェクトの取組みを推進



内製開発体制と全社員の実行力の強化により、全社DXを推進

DX推進5箇条

1 次世代層含めたリーダーがあるべき姿を創造し牽引する

組織・肩書に囚われず、DXビジョン実現に向け強い意志を持つ次世代層を含めたリーダーが、DXの先頭に立ち、あるべき姿を創造し実現に向けて牽引する

2 本店、支社・事業所、デジタル部門が協働して変革を担う

変革の推進の最初から、本店、支社・事業所、デジタル部門がスクラムを組んだ状態での構想や開発を行う

3 非連続な変化を恐れない

DXビジョンに立ち返りながら、ゼロベースで事業や業務プロセスの再定義を繰り返すマインドで臨む

4 失敗から学ぶ

先端テクノロジーやアジャイルを失敗を恐れずに積極導入
成果物を迅速に展開し、目的やニーズに応じて反復改善する

5 自社内にスキルを構築する

本店、支社・事業所、デジタル部門が緊密に連携し、
外部環境の変化に応じて自分の力でDXを実行できる能力を獲得する



経営層と全社員が、将来のありたい姿（ビジョン）・目標の実現に向け、5つの心構えである「DX推進5箇条」を共有し、一体となって取組みを推進

We Change With Digital.

